

(資料4) 平成22年度地方環境研究所等との共同研究実施課題一覧

内訳:56機関45課題(B, C型共同研究を含む。C型は代表研究所を掲載)

地環研機関名	担当者 (所属)	課題名	国環研担当者 (所属)	タイプ		研究期間 (年)	備考
				A・B・C	α・β		
北海道立総合研究機構環境科学研究センター	永洞真一郎(環境保全部)	大気粉じんのバイオアッセイによる遺伝毒性及び環境ホルモン活性を指標とした地域特性の調査研究	中島大介(リスクC)	B	α	22~23	新
	姉崎克典(環境保全部)	ダイオキシン類及びPCBsの発生源解析に関する研究	橋本俊次(化学)	B	β	22~24	新
	五十嵐聖貴(環境科学部)	摩周湖の透明度変化に関する物理・化学・生物学的要因解析	田中 敦(化学)	B	β	22~24	新
	三上英敏(環境保全部)	釧路湿原シラルトロ沼の環境劣化とその原因の究明	高村典子(リスクC)	B	β	20~22	継続
	野口 泉(環境保全部)	長距離輸送大気汚染物質に起因する対流圏オゾンおよび酸性霧による森林影響	清水英幸(アジアG)	B	β	22~24	新
秋田県健康環境センター	佐藤信也(環境・理化学部)他2機関	湖沼生態系の持続的管理手法の開発に関する研究	田中嘉成(リスクC)	C	β	22~24	新
宮城県保健環境センター	佐久間 隆(大気環境部)	大気粉じんのバイオアッセイによる遺伝毒性及び環境ホルモン活性を指標とした地域特性の調査研究	中島大介(リスクC)	B	α	22~23	新
	郷右近順子(水環境部)	非意図的に生成された化学物質が排出される水環境の包括的評価に関するパイロット研究	白石不二雄(リスクC)	B	β	22~23	新
新潟県保健環境科学研究所	武 直子(調査研究室)	山岳地における対流圏オゾンの時間変動に関する研究	大原利真(アジアG)	B	β	22	新
群馬県衛生環境研究所	熊谷貴美代(研究企画係)	大気中の酸化的二次生成物質の測定と遺伝毒性評価	中島大介(リスクC)	B	β	22~24	新
千葉県環境研究センター	小林広茂(水質地質部)	東京湾東部における未確認有害植物プランクトンのモニタリング	河地正伸(生物)	B	α	22~24	新
	岡崎 淳(企画情報室)他6機関	植物のオゾン被害とストレス診断に関する研究(C型研究代表)	青野光子・久保明弘(生物)	C	β	21~23	継続
東京都環境科学研究所	西野貴裕・高橋明宏(分析研究科)	PFOS、PFOA及びその類縁物質の環境実態把握及び汚染源の推定	高澤嘉一・柴田康行(化学)	B	β	20~22	継続
神奈川県水産技術センター	山田佳昭(資源環境部)	東京湾西部における未確認有害植物プランクトンのモニタリング	河地正伸(生物)	B	α	22~24	新
横浜市環境科学研究所	酒井 学	都市部と農村部における河川水のオオミジンコを用いた総合毒性評価に関する研究	多田 満(生物)	B	α	21~23	継続
	二宮勝幸(水環境系)	地球温暖化がもたらす日本沿岸域の水質変化とその適応策に関する研究	牧(水士壤)	C	β	20~22	継続
川崎市公害研究所	竹内 浄(都市環境研究)	川崎市における大気シミュレーションに関する研究	菅田誠治(大気)大原利真(アジアG)	B	β	22~23	新
長野県環境保全研究所	中込和徳(大気環境部)	八方尾根におけるアジア大陸起源大気粉じんの成分特性の解明	向井人史(地球C)	B	β	22~24	新
	村上隆一(環境保全部)	内陸山間地域における揮発性有機化合物の動態に関する研究	横内陽子(化学)	B	β	22~24	新
	小澤秀明(大気環境部)	環境中のダイオキシン類と関連物質のモニタリングおよび発生源解析に関する研究	橋本俊次(化学)	B	β	21~22	継続
	小平由美子(水・土壌環境部)	湖沼における水草帯の保全と復元手法に関する研究	笠井文絵(生物)	B	β	21~22	継続
	浜田 崇(循環型社会部)	都市の温熱環境マップ作成に関する研究	一ノ瀬俊明(社会)	B	β	21~22	継続
静岡県環境衛生科学研究所	今津佳子(環境科学部)	大気粉じんのバイオアッセイによる遺伝毒性及び環境ホルモン活性を指標とした地域特性の調査研究	中島大介(リスクC)	B	α	22~23	新
富山県環境科学センター	木戸瑞佳・近藤隆之(大気課)	山域地域における黄砂エアロゾルの動態に関する研究	西川雅高(基盤ラボ)	B	β	21~23	継続
	木戸瑞佳・近藤隆之(大気課)	ライダー観測データを用いた富山県における黄砂エアロゾルの影響に関する研究	杉本伸夫・松井一郎(大気)、清水 厚(アジアG)	B	β	22~24	新
福井県衛生環境研究センター	田中宏和(環境部)	北陸地方における産業廃棄物最終処分場(管理型)の安定化に関する研究	山田正人・遠藤和人・石垣智基(循環C)	B	β	20~22	継続
福井県自然保護センター	平山亜希子	生物の空間分布予測モデルにもとづいた自然再生適地の抽出と市民参加による検証	角谷 拓(生物)	B	α	21~22	継続
京都府保健環境	日置 正・辻 昭博(大気課)	エアロゾル中の微量金属元素濃度比及び鉛同位体比を用いた長距離輸送現象の解析	向井人史(地球C)	B	β	21~23	継続

地環研機関名	担当者 (所属)	課題名	国環研担当者 (所属)	タイプ		研究期間 (年)	備考
				A・B・C	α・β		
研究所	日置 正(大気課)	化学成分組成を指標とした都市大気エアロゾルの越境大気汚染による影響評価	大原利真(アジアG)	B	β	22~24	新
大阪府環境農林水産総合研究所	山本勝彦(環境情報部)	ライダー観測データを用いた近畿地方の対流圏大気環境の調査	杉本伸夫・松井一郎(大気)、清水厚(アジアG)、西川雅高(基盤ラボ)	B	β	22	新
大阪市立環境科学研究所	板野泰之(都市環境)他47機関	PM2.5と光化学オキシダントの実態解明と発生源寄与評価に関する研究	大原利真(アジアG)、菅田誠治(大気)	C	β	22~24	新
兵庫県環境研究センター	鈴木元治(安全科学科)	大気粉じんのバイオアッセイによる遺伝毒性及び環境ホルモン活性を指標とした地域特性の調査研究	中島大介(リスクC)	B	α	22~23	新
	松村千里(安全科学部)他28機関	有機フッ素化合物の環境汚染実態と排出源について(C型研究代表)	柴田康行(化学)	C	β	21~22	継続
	宮崎 一(水質環境科)他7機関	浅海域における干潟・藻場の生態系機能に関する研究(C型研究代表)	矢部 徹(生物)	C	β	21~23	継続
名古屋市環境科学研究所	池盛文数(大気騒音部)	大気中の酸化的二次生成物質の測定と遺伝毒性評価	中島大介(リスクC)	B	β	22~24	新
	山神真紀子(大気騒音部)	大気中粒子状物質の成分の短期暴露による健康影響評価	上田佳代(健康)	B	β	22~23	新
	朝日教智・榊原靖(水質部)	土壌・地下水汚染物質の微生物分解に関する研究	岩崎一弘(水士壤)	B	β	21~23	継続
島根県保健環境科学研究所	黒崎理恵(大気環境G)	高濃度エアロゾル現象に関するPM2.5の影響調査とライダー観測データの応用	杉本伸夫・松井一郎(大気)、清水厚(アジアG)、西川雅高(基盤ラボ)	B	β	22	新
福岡県保健環境研究所	田中義人(環境科学部)	微細藻類が生産する有毒物質のモニタリングに関する研究	佐野友春(基盤ラボ)	B	α	22~24	新
	須田隆一(環境科学部)他12機関	ブナ林生態系における生物・環境モニタリングシステムの構築	清水英幸(アジア)	C	β	22~24	新
福岡市保健環境研究所	藤代敏行(環境科学課)	博多湾における円石藻の非円石細胞ステージのモニタリング	河地正伸(生物)	B	α	21~23	継続
鹿児島県環境保健センター	平原律雄(大気部)	大気粉じんのバイオアッセイによる遺伝毒性及び環境ホルモン活性を指標とした地域特性の調査研究	中島大介(リスク)	B	α	22~23	新
沖縄県衛生環境研究所	仲宗根一哉(環境科学班)	サンゴ礁に対する地球規模及び地域規模ストレスの影響評価	山野博哉(地球C)	B	α	20~22	継続
	玉城不二美(衛生科学班)	微細藻類が生産する有毒物質のモニタリングに関する研究	佐野友春(基盤ラボ)	B	α	22~24	新
	井上 豪(環境科学班)	亜熱帯域島嶼における最終処分場の安定化メカニズム解明に関する研究	山田正人(循環C)	B	β	20~22	継続

* 研究タイプA~C

A型共同研究:地環研等の研究者が自治体における国内留学制度を利用し、国環研において原則として1ヶ月以上にわたり共同で研究を実施するもの。

B型共同研究:地環研等と国環研の研究者の協議により、共同研究計画を定め、それに従って各々の研究所において研究を実施するもの。

C型共同研究:全国環境研協議会からの提言を受けて、国環研と複数の地環研等の研究者が参加して共同研究を実施するもの。

* 研究タイプα、β

α:国立環境研究所の研究者が申請する場合

β:地方環境研究所の研究者が申請する場合